

**JASDAQ**

平成 24 年 2 月 10 日

各 位

会社名 株式会社ソフィアホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 村田 篤紀  
(コード番号 6942)  
問合せ先責任者 取締役 吉永 正紀  
(TEL 03-5368-8883)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 11 月 11 日に公表いたしました平成 24 年 3 月期通期連結業績予想を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

##### (1) 業績予想の修正について

平成 24 年 3 月期通期連結業績予想値の修正(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,200	100	80	50	2.47
今回発表予想(B)	1,800	△240	△200	△250	△12.37
増減額(B-A)	△400	△340	△280	△300	
増減率(%)	△18.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 23 年 3 月期)	2,742	98	82	77	3.82

#### 修正の理由

当社グループを取り巻く事業環境の変化に伴い、収益構造の抜本的改善を目的とした大型変革に取り組んだ結果、有望な事業領域におけるビジネスモデルの構築・確立を実施する過程において、当初目標との間に差異が発生したため、以下記載の通り、前回予想を下回る見込みとなりました。

#### [事業環境]

世界的な経済成長の鈍化、欧州の金融不安、増大する政府債務、急速な高齢化や人口減少などを背景に日本の経済環境は依然として厳しい状況が続いております。そのような中、当社グループの主要事業の一つである国内データセンター事業においては、東日本大震災の影響も軽微に留まり、また多くの企業で IT の災害対策強化に向けた取り組みが活発化していることもあって、同事業のサービスは IT の災害対策強化の有効な手段として再評価されつつあります。ここにクラウドコンピューティングサービスの本格的な伸長も貢献し、市場全体としては今後ゆるやかな成長が見込まれているものといえます。システムインテグレーション事業分野全体の中では、EC(電子商取引)の継続的増加に伴い、引き続きネット決済代行サービス市場の拡大が期待されるものの、企業のニーズや問題に対して、システム戦略立案、設計、制作、運用・保守といった全工程のソリューション提供を行うシステムインテグレーション市場が震災の影響や景気低迷などにより、依然として企業が不要不急の IT 投資を抑制しており、今後の市場規模を予測することが困難な状況にあります。

一方、通信関連市場におきましては、「低速・低料金プラン」など消費者の仔細なニーズに対応するなど、国内外の通信キャリアやメーカー各社によるスマートフォン(高性能携帯電話)に対する競争が過熱する中、iPhone や Android 端末といったスマートフォン市場は急速な拡大基調である

とともに、スマートフォン向けのコンテンツやアプリケーション等の関連市場も引き続き大きな潜在的成長性が見込まれる状況にあります。

#### [業績予想修正の経緯及び理由]

このような状況の下、インターネット関連事業を行う連結子会社のソフィア総合研究所株式会社におきましては、引き続きデータセンターアウトソーシング事業を継続する一方、システムインテグレーション事業において、企業の IT に対する積極的投資意欲が低迷する中、セキュリティ、リスク管理など IT 投資の優先度が高いニーズを見極め、戦略的な展開を実施いたしました。また、E コマースや情報ポータルサイトの企画・構築・運営支援サービスや既存インフラ事業を基盤とした新規サービスといった、顧客の多様なニーズを的確に把握した上で、ソリューションに結びつけるといったトータルコンサルティングに努めてまいりました。しかしながら、クラウドなどサービスラインナップの拡充に伴う事業基盤の見直しに注力したこと、また、激化する競争の中で足元受注が予定を下回った上、各事業分野の採算性が全般的に悪化したことにより、前回発表予想値と比べると大幅に下振れることになりました。

また、モバイル事業を行う連結子会社の株式会社ソフィアモバイルにおきましては、急成長しているスマートフォン市場向けに、引き続きスマートフォン端末と NTT ドコモの 3G 回線をセットにし、独自の IP 電話アプリケーションを利用した IP 電話通信サービス「エスマビ」を法人及び消費者を対象に積極的に展開いたしました。また、「エスマビ」の既存顧客に対して、音質改良アプリケーションを提供することにより、より一層の音声クオリティを実現させるとともに、SIM フリー端末で利用できるプリペイド式のデータ通信専用「エスマビ SIM カード」の発売によって、潜在顧客の開拓に注力いたしました。スマートフォンを対象としたアプリケーション市場向けには、「エスマビ」の付加価値サービスとして、ビジネス向けアプリケーションの投入を実施いたしました。しかしながら、既存顧客のフォローアップを行うとともに、ビジネスパートナー（販売代理店）の拡充など販売力の強化を実施したものの、足元の成約件数が計画を下回って推移しており、今期末までに売上を予定した成約件数が計上できない見込みとなりました。

上記が主な要因として、第 3 四半期の業績及び足元の連結業績動向を勘案し、平成 24 年 3 月期通期連結業績予想について、売上高、営業利益、経常利益及び当期純利益を修正いたします。

#### (2) 今後の取り組みについて

当社グループは、今後とも引き続き、事業環境の変化に伴い、有望な事業領域等におけるビジネスモデルの変革・確立を実施し、収益構造の改善を目指してまいります。また、顧客の IT 及び通信パートナーとして、顧客の抱える潜在的問題を解析し、その要因に合わせたソリューションを提供して、顧客との長期的な信頼関係を維持・向上させること、及び当社グループの総合力を活用して必要なソリューションをワンストップで提供すること、すなわち当社グループの事業方針であります「ハイエンドインテグレーション」の強化を基軸に、より積極的に事業展開してまいります。

現在、当社グループは、IT 及び通信の両面において、過去の実績で蓄積してきたノウハウを生かし、独自のオリジナリティ要素を組み込んだ、インターネット上の顧客間のコミュニケーションをベースとしたソーシャルネットワークキングシステム（SNS）などのプラットフォームシステム、及びインターネットをベースとして、ユーザー（顧客）に情報サービスやアプリケーションサービスを提供するクラウドなどのサービス・商品の展開に努めております。また、このようなプラットフォームシステム又はクラウドを有する企業との業務提携や M&A も視野に関連企業へのアプローチも行っております。「エスマビ」サービスにつきましては、付加価値サービス向上の一環として、スマートフォン向けビジネスアプリケーションを拡充するとともに、単に「エスマビ」端末及びサービスを販売するのではなく、当社グループの IT 及び通信サービス領域における総合力を活用して、特に法人顧客の潜在ニーズを発掘し、当該顧客の業務実態に適応したソリューションラインナップを提案するという事業活動を行っております。

このように、当社グループは今後、来期業績の黒字回復に向けて、プラットフォームシステム、クラウド及び「エスマビ」サービス等のビジネスモデルの確立に注力していき、「ハイエンドインテグレーション」を実現するために邁進していく所存であります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。